

「漢字は誰がつくったの？」

「なぜ日本の文字とアメリカの文字は違うの？」

「どうして漢字とかなとカタカナがあるの？」

「山という漢字は、なぜ山の形をしているの？」

なぜ、なぜ、なぜ……知識欲の旺盛な子どもは親を質問攻めにします。

こういうときに、漢字を誰がつくったなんて、そんなことはどうでもいいの！ と叱らないでください。わからなければ、お母さんも知らないから、今度、調べておくねとか、一緒に勉強してみようということであれば、子どもの知識欲がそがれることはありません。

それに、漢字の成り立ちを知ることは、子どもだけでなく、親としても、けっこう知的好奇心を刺激されるものです。

さて

人類は、今から一万年くらい前に「農耕」ということを知ったようです。最初に農耕を始めた人類は、今のイラクに住んでいたスメール人といわれています。そこにはチグリスとユーフラテスという二つの川が流れています。この流域に、どこからともなく移って来たスメール人という民族が土着しました。

この地は沃野であって、小麦の種を蒔くと、秋には10倍100倍となって収穫できました。小麦は、次の年まで保存できました。たくさん収穫できれば、もう食糧を得るために毎日働かなくてもいいということになります。

そこで、人間は、生活をよくするためのいろいろな方法を考えました。ここに初めて「文化」というものが生まれたのです。イラク周辺の地域の

地下深くには、それらの遺跡が残っていて、今も続々と掘り出されています。湾岸戦争があったときにいちばん心配されたのは、地下に埋没しているこれらの遺跡が崩壊しないかということでした。ヨーロッパの学者たちは今も研究を続けていますが、遺跡からは5000年以上も前に書かれた文字が続々と発見されています。

これを解読すると、今から5000年前でも、人間は豊かな生活をしてきたということがわかります。

「ある家庭では非常に豊かな生活をしていて、自分の子どもを教育するために家庭牧師をつけていた」というようなことがわかる記録も発見されています。いつの時代でも、子どもの教育は親の最大関心事だったようです。その中には日記もあり、これを読むと、今の生活とまったく変わらないのです。

これは世界で最古の記録といわれている聖書よりも、ずっと古い年代です。聖書では3000年前くらい昔のところまでしか溯れません。

このスメール人というのは、私が学生の頃まではまったく知られていなかった民族です。伝説的にはスメールという言葉もあったのですが、スメール人が実在した民族とは歴史上認められなかったのです。それが今や地中から数多くの遺跡が掘り出されたことによって実証されました。

しかし、スメール人は、今から4000年前、歴史の舞台から忽然と消えているのです。消えてはいるけれども言葉は残りました。そしてそのスメールの言葉に一番近いのは、なんと日本語なのです。

私はひそかに、われわれ日本人はスメール人の子孫であると思っています。いるほどです。